



道

学校の教育目標
「ともに学び、
心豊かで
たくましい
子供の育成」

* 勝っても負けても潔し *

校長 宮島和生

先日、2年ぶりの校内相撲大会を開催しました。本校に50年も続く伝統ある行事であり、保護者の方の中にも、本校の土俵で相撲を取った思い出がある方もたくさんおられると思います。その予選の中で、4年生のある子供たちが戦ったとても印象に残る試合がありました。

対戦するのは、さほど体は大きくありませんが体力や腕力に自信がありそうなA君と、身長が高く手足の長さを生かすことができそうなB君です。二人の実力は互いに拮抗した状態でしたが、A君は徐々に土俵際まで追い詰められていきます。やわらかい体を使いながら粘りに粘っていたのですが、B君の強い押しに負けて倒れてしまいました。テントに戻ったA君は負けたことが信じられないことと悔しさで、唇をかみしめながら泣きそうになるのをぐっとがまんしているようでした。そのA君のもとへB君がかけより「Aと相撲ができて本当によかった。楽しかった。来年もう一回やろう」と声をかけたのです。それに対してA君は「俺も」と答えていました。

私たちの国には、華道、茶道、剣道、柔道等、「道」の付く文化、武芸が数多くあります。相撲道もそのうちの一つです。俵で作られた直径4.55メートルの円の外に出るか、足の裏以外の部分が土についてしまうと負けという「勝ち」「負け」に関しては単純な競技です。しかし、多くのしきたりと辛い稽古を重ねる中で、技だけでなく心も磨き上げて己をより高い価値のあるものにしていく、そこが相撲道と言われる所以です。

A君、B君の試合のように負けてくやしさを知り、そしてそれをばねに乗り越える力を新しく自分に付ける。勝って相手の存在が大切なものであることに気づき、友達への敬意の念を新たにす。勝っても負けても潔い、心を磨いた東部小学校の相撲道だったと思います。保護者や家族の皆様、地域の皆様が50年もの間大切にしてきた東部小学校の相撲大会の意義を、目の当たりにすることができました。



相撲大会の取組より

子供たちには、相撲を取り終えたときの気持ちや学んだことをきちんと振り返り、日頃の生活にもしっかり生かし、自分の「〇〇道」と呼べるような姿を期待しています。